

## 4 横浜みどりアップ計画市民推進会議

### (1) 横浜みどりアップ計画市民推進会議の概要

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さんへの情報提供等をおこなうことを目的として、平成21年に設置し、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けました。これまでに全体会議や専門部会の開催に加え、参加市民を公募した現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価、提案を行ってきました。

みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、平成26年度からのみどりアップ計画についても、継続して活動しています。

【表】委員名簿（50音順・敬称略、平成30年3月31日時点）

氏名	所属部会	区分	備考
相川 健志	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
網代 宗四郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市町内会連合会 委員
東 みちよ	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会部会長	公募市民	
池田 信彦	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
池邊 このみ	・「緑をつくる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科教授
岩本 誠	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
大竹 斎子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
加茂 千津子	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
清水 靖枝	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
進士 五十八	・座長	学識経験者	福井県立大学 学長
蔦谷 栄一	・副座長 ・「農を感じる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	農的社会デザイン研究所代表
長瀬 里佳	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
野路 幸子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市中央農業委員会委員
望月 正光	・「森を育む」施策を検討する部会部会長 ・広報・見える化部会委員	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授
靱山 功	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事
若林 史郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜商工会議所 常任参与

## (2) 平成 29 年度の活動実績

## ア 全体会議

全体会議、現地調査、部会での議論をもとに「横浜みどりアップ計画の評価・提案」（横浜みどりアップ計画市民推進会議報告書）について検討しました。

	開催日	主な討議内容
第 26 回会議	平成 29 年 5 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜みどりアップ計画 3 か年（平成 26 年度～平成 28 年度）の進捗状況について</li> <li>市民推進会議 平成 28 年度報告書（案）について</li> <li>市民推進会議 平成 29 年度の取組について</li> </ul>
第 27 回会議	平成 30 年 2 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜みどりアップ計画の進捗状況について</li> <li>市民推進会議平成 29 年度報告書について</li> </ul>

## イ 部会

## 《施策別専門部会》

横浜みどりアップ計画の事業分野ごとに、取組の内容と進捗状況について意見交換を行い、評価・提案について検討しました。

会議	開催日	主な討議内容
第 10 回「森を育む」 施策を検討する部会	平成 30 年 3 月 6 日	・「森を育む」施策の評価・提案について
第 10 回「農を感じる」 施策を検討する部会	平成 30 年 3 月 19 日	・「農を感じる」施策の評価・提案について
第 10 回「緑をつくる」 施策を検討する部会	平成 30 年 3 月 2 日	・「緑をつくる」施策の評価・提案について

## 《広報・見える化部会》

市民推進会議の広報誌「みどりアップQ」の編集を行いました。

みどりアップ計画の取組を実際に取材し、その課題に着目した内容を「みどりアップQ」に加えました。

市民の視点から、横浜みどりアップ計画と横浜みどり税を市民の皆さまへわかりやすく伝える方法について検討しました。

会議	開催日	主な討議内容
第 33 回	平成 29 年 7 月 20 日	・みどりアップQ 第 10 号について
第 34 回	平成 29 年 9 月 26 日	・みどりアップQ 第 11 号について

会議	開催日	主な討議内容
第 35 回	平成 29 年 12 月 19 日	・みどりアップ Q 第 12 号について
第 36 回	平成 30 年 2 月 27 日	・横浜みどりアップ計画「効果的な広報の展開」の評価・ 提案について ・みどりアップ Q 第 13 号以降のテーマについて

### 《調査部会》

横浜みどりアップ計画の取組を実感し、現場で活動する方々の声を直接聞くため、現地調査を実施しました。

会議	開催日	主な討議内容
第 17 回	平成 29 年 11 月 11 日	<p>&lt;場所&gt;</p> <p>①茅ヶ崎公園（都筑区） ②メゾンふじのき台（都筑区） ③ささぶねのみち、大原みねみち公園（都筑区）</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>茅ヶ崎公園や大原みねみち公園の緑道を歩き、良好な森を育成する取組の推進について、愛護会や森づくり活動団体、都筑土木事務所職員から説明を受けた後、都筑区役所で一般参加者と意見交換を行いました。</p>

【写真】現地調査の様子



## ウ 広報誌の発行

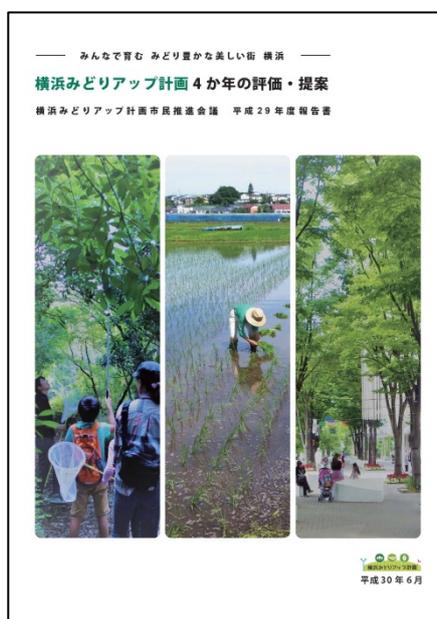
「みどりアップQ」を3号（平成29年9月、12月、平成30年2月）発行しました。



【図】「みどりアップQ」の表紙

## エ 報告書の発行

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成29年度報告書を発行します。  
（平成30年6月）



【図】報告書の表紙

### (3) 評価と提案の概要

※「横浜みどりアップ計画4か年の評価・提案（横浜みどりアップ計画市民推進会議平成29年度報告書）」より抜粋

計画全体として、柱ごとに数多くの取組で着実な推進が図られています。

「取組の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、みどりアップ計画の根幹である樹林地の指定は、目標を達成できていませんが、小面積の指定が多くなった背景なども踏まえ、土地所有者へ丁寧な働きかけに努めていることを評価します。また、民有樹林地の維持管理の支援は、所有者が土地を持ち続けることに大いに役立っていることから、引き続き支援を行うとともに、利用者の声を聴くなど、ニーズに沿った支援内容の検討も必要です。

「取組の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田の保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していることを評価します。取組開始から10年目が近づいていますので、引き続き継続していけるよう努めてください。また、特区農園の開設を支援する「市民農園コーディネーター」の活用により、市民が利用しやすい農園の開設や運営の支援をさらに進めていくことを期待します。

「取組の柱3：市民が実感できる緑をつくる」については、民有地における緑化の助成については、目標を下回る助成件数となっています。今後は、美しい緑化の実績写真などを効果的に使いながら、市民や事業者へPRすることが必要ですが、より利用しやすい制度へ見直す時期が来ています。また、都心臨海部の緑花による賑わいづくりでは、市民の皆様の緑や花への関心が高まっていますので、今後もこの事業が、市民の誇りとなり、横浜の魅力の向上に寄与することを期待します。

「効果的な広報の展開」については、広報よこはまの特集ページで、「みどりアップの楽しみ方」という新しい切り口の紹介で効果的な広報に取り組んでいることが見て取れました。引き続き、区ごとの特徴を捉え、わかりやすく、市民の目につく広報を期待します。また、今後は知ってもらうだけでなく、理解してもらう、参加してもらうことも必要です。これからは、それらのステップを意識した広報に取り組まれることを期待します。

平成30年度はみどりアップ計画の最終年度となります。今までは行政主導型でしたが、これからは、市民や企業、地域等が主体性を持って自発的に緑の保全・創造に取り組んでいく道筋をつけることが大きな課題です。



#### 4 横浜みどりアップ計画市民推進会議